

### 30. オバチャン商売への道（続編） ～クラフト素材開発、商品見本を作ってみました～の巻

ある日の VVK 事務所（ 1 ）。

オバチャンたちの熱気というか「議論」の様子を想像していただくには、スズメが 5 ～ 6 羽でさえずりあっている音、もしくは猫が 3 ～ 4 匹で喧嘩をしている音がとても近いことを最近発見したプロマネ（ 2 ）。

では、話を戻してある日の VVK 事務所。

インドにはなんと 7 百万の SHG があると言われているが（ The Times of India 2007 年 2 月 25 日記事）果たして誰が、どのように数えたは謎。それはさておき、オバチャンたちはインド全国津々浦々ととてもとても賢いので、ローンをくれるという団体にあわせて（政府だろうが、NGO だろうが）次々に新たな SHG を作る。

多くのオバチャンたちが「あら～、アタシあんまりたくさんの SHG のメンバーになっているから、いちいち各 SHG の名前なんて覚えてられないワ～」なんてつぶやく話は珍しくない。

とにかくインドに 7 百万ある SHG の中で、さらに何十万とあるだろう SHG の連合体の一つである VVK。2007 年 2 月末現在、VVK に加盟している SHG の数は、35 グループ。「2007 年 3 月末までに VVK 加盟グループを 40 にするぞ！」という昨年 4 月の総会での年次目標達成まであと 5 グループとなった。

VVK 銀行がスタートして、自分たちの貯蓄や会費、出資金などなどの自己資金のみで、2 月末までに 70,000 ルピー（約 19 万円）のローンを貸し出した。驚くべきことに（プロマネが驚いているだけでなく、オバチャンたちも驚いている）返済率も 100 パーセントに近い！さすが、自分の懐からひねり出した「自分たちの」お金。借金踏み倒しにはまだ至っていないオバチャンたちであった。

やはり自腹を切った銀行ビジネスは相当気合いが入っている。

ようやく話を本題にもどして、ある日の VVK 事務所。

前号(PCUR-LINK 便り第 29 号)で、日本からインドに出張してきたクラフト素材開発担当のソムニード・スタッフ、ナオコ( 3 )の話をご紹介したが、今日はその続編。

「トウモロコシの皮が 4 枚で 200 ルピー」(クラフト素材の商品：東 Q ハンズ販売価格)が、先月以降、DNA に焼き付いているオバチャンたち。

前号でお伝えしたミーティングの数日後、ナオコの指導のもとで、実際に商品見本を作ることになった。

商品見本づくりに手を挙げた 4 人のオバチャンの目はガンジー氏の顔がチラチラ。(注：インドのお札はすべてガンジー氏の顔が印刷されている)

2 月までに、農村部の SHG のオバチャンたちの協力で集めたウコン(ターメリック)の捨てている部分や、バナナの茎の捨てている部分などを感想させて、計って、袋詰めし、日本で販売する試作品を作る、というのが今日の課題であった。

■ナオコ：「では皆さん、3 日間乾燥させたターメリックの捨てている部分やバナナの繊維を 100 グラムと 500 グラムの別に計ってください。そのときには、ビニール袋の重さはちゃんと引いて、ターメリックならターメリック、バナナの繊維ならバナナの繊維だけで、100 グラム、500 グラムにしてくださいねー。」

○オバチャン一同：「は～い、わかりましたー！」

オバチャンたち、はかりの使い方はなんとか習得。

さくさくとビニール袋にターメリックとバナナの繊維を詰めてゆくが、その後、ナオコが思いもつかなかった出来事が・・・。

■ナオコ：「ちょっと、ナニをしているのですか??？」

オバチャン 1：「あ、この袋ね、ホントはバナナの繊維用の袋なんだけどさ、間違えて、ターメリックを入れちゃったのよ。それでターメリックを取り出して、バナナの繊維を入れているのよ。」

■ナオコ：「それはいいのですが、まだターメリックが袋に残っているのに、バナナの繊維を入れてはダメではないですか!!!」

オバチャン 2：「あら、こんな糸くずみたいなターメリックだったら大丈夫よ。ちょっと混ざっているだけだし、ちゃんと 100 グラムに計るから、大丈夫よ。問題ない、問題ない。」

■ナオコ：「あのですねえ、バナナの繊維という商品名で売るので、0.00001 グラムでもターメリックが入っていてはダメなのです!!!」

オバチャン 2：「あら、そーなの？」

■ナオコ：「そーなのです・・・」

次に、袋詰めした後のパッキング。

熱で袋の口をふさぐパッキング装置の使い方をオバチャンに説明したナオコ。

早速、オバチャンたち自身で袋詰めしたバナナの繊維やターメリックをパッキングしてゆくが・・・。

○オバチャン 3:「あらー、このパッキングの機械、なんかおかしーわー。壊れているわよ。だってきちんと口がふさがらないもん。」

■ナオコ:「あのですねえ、何度か使ったら、その都度、汚れをとらないと、その汚れがつまって、口がふさがらなくなるのですよ。」

オバチャン 4:「ナオコ・マダム、ナオコ・マダム、見て見て、こんな感じでいいかしら？」とオバチャンがナオコに見せた袋は、激しく斜めにパッキングされており・・・。

■ナオコ:「何度でも言いますが、斜めではダメです。まっすぐ、です！底の線と口をふさぐ線は平行でなければなりません。合い言葉は“ストレート”、“ストレート”ですよっ！！」

▲オバチャン一同:「は～いっ！そんなことなら問題ないわ。ストレートね、ストレート」

一同、お経を唱えるように英語で「ストレート、ストレート」とブツブツいいながら、袋の口をふさいでゆくが、しかし・・・。

どれも不合格として、ナオコに「こんなんでは、日本では売れない」と跳ね返されてしまう。

もっともオバチャンたちがいつも自分の日用品や食材を買う店では、品質など「悪かろう、安かろう」というものが多いので、香辛料（チリパウダーなど）のパックの口が開いていることなど日常茶飯事。

そもそもオバチャンたち、そういう袋詰めされた商品で、「ストレート」に包装されたものなど見たことはない。

数十分後、オバチャンたちの前にはナオコに不合格と言われた、失敗作の山が・・・。

プロマネ:「アンタたち、この失敗した袋の山は、ナンだと思う？」

オバチャン 4:「うーん、ゴミかしら？」

プロマネ:「そうねえ。この袋、一枚いくらするか知ってる？」

○オバチャン 3:「今回は、試作品ということで、ナオコ・マダムが袋も買ってきてくれたから、アタシたち値段は知らないわー。」

プロマネ:「ふ～ん、あーそう。で、この袋使えないよね？」

オバチャン 2 : 「そうよ、こんなに破けてしまっちは、売れないわねえ。」

プロマネ : 「売れない、ということはどーいうこと？」

●オバチャン 1 : 「この分、損になるわねー。失敗して売れない袋がある分は、その分が損よ  
ねー」

プロマネ : 「もし VVK が、クラフト素材ビジネスをやるとなったら、こうした材料を買  
うでしょう？そそして、どうしても失敗作ができるわよね？その分は損になるってことわ  
かる？」

▲オバチャン一同 : 「わかるわ〜。」

オバチャン 4 : 「そうねえ、じゃあこれがもし VVK で買った袋だったら、タイヘンだっ  
たわねえ。こんなにたくさんの袋を無駄にしちゃって。」

オバチャン 2 : 「あら〜、VVK のお金で袋を買うときは、失敗しないようにしないとダメ  
ねー。」

プロマネ : 「・・・アンタたちのそのいいようだと、ソムニードや JICA のお金で買った  
袋なら、失敗してもいいというわけ？」

▲オバチャン一同沈黙 : (オバチャン心の声) 「トーゼンじゃない。だって自分のお金じゃな  
いんだも〜ん。VVK のお金で、こんなに袋詰めに失敗しちゃたら、タイヘンな損になっ  
ていたところだわー」

オバチャンの心の声は、しっかりとオバチャンの顔に書いてあり、プロマネとナオコにも  
伝わったのであった。

・・・その後・・・

■ナオコ : 「試作品の研修ならともかく、VVK と本格的にクラフト素材ビジネスをやるとき  
には慎重にならないといけませんねえ。」

プロマネ : 「そーよ。だから、今まで何度も VVK 銀行に資金をだせ、とか VVK のサリー  
小売業に資本金をだせ、とかオバチャンたちに言われたけど、絶対お金は渡さなかったの。  
そのことがよ〜くわかるでしょ？」

■ナオコ : 「わかります、わかります。オバチャンたち、お金をソムニードや JICA からも  
らっても、自分たちの懐から出していないから、痛くもかゆくもないでしょーね。ソムニ  
ードや JIC からもらったお金だったら、ビジネスが失敗しようが、成功しようが、全然気  
にしないでしょーね。今回の袋と同じ運命ですよ。」

プロマネ : 「それは、そうよ。帳簿付けも領収書の発行すらも大事に思ってなくて、コス  
ト計算もできないオバチャンたちがまだまだ多い VVK に、投資するなんて！アナタ、自分  
のお金で彼女たちに資本投資したいと思う？」

■ナオコ : 「絶対、嫌です。」

こんなオバチャンたちであるが、自分たちの VVK 銀行は着々と営業している。銀行業にまつわる様々な疑問は、せっせと団体登録事務所に通って、法律に基づいているかどうか、どうやって事務処理をしたらよいか、と自分たちで質問に行っている。

その都度、オバチャンの対応する担当官は、なんだか VVK 銀行に興味を持ちだしてきており「ワシのところには SHG の連合体が、団体登録をしたいと言ってくるのじゃが、VVK で会則の制定の仕方を指導してくれんか？」と言い出す様子。

プロジェクト担当スタッフとしては、「それをするのが団体登録事務所の仕事でしょーがー！！」とあきれる一方、VVK が政府から団体設立と運営にあたって技術提供の申し出を受けるのは、とても嬉しい話である。

ようやく「オバチャンたち自身による組織運営」の技術が、外部の人たちにも少しずつわかってもらえはじめ、「VVK はなんか他の SHG の連合たちとは違うぞ?!」と一番身近な団体登録事務所の担当官から思われ始めている。

「たった 3 年間で出来ることは限られているだろう」でも、「3 年間で出来ることだってある」というのを、一緒に活動してきた VVK のオバチャンたち、プロジェクト担当スタッフたちが、今は言葉に出来ないけれど、共通の気持ちを持つようになってきた 3 月。

4 月から 5 月に評価を実施して、これを言葉にして、さらに次の 3 年間につなげてゆかねば、と思う今日この頃である。

4 月は、新年度の活動計画と前年度の活動を振り返る大事な VVK 会員総会。もう 3 月からオバチャンたちは、その 4 月の総会に向けて、あれこれと準備を始めている。

次号の PCUR-LINK 便りは、その総会準備委員会のお話！

( 1 ) VVK とは、ビシャカ・ワニタ・クランティの略。2005 年に同案件のファシリテーションによって設立されたビシャカパトナム市内および近郊の 35 の SHG からなる連合体。SHG とは、セルフ・ヘルプ・グループといい、貯蓄と貸し付けを行う 10 人～20 人で組織されるグループ。

( 2 ) プロマネ：プロジェクト・マネージャーの略。本名は、原康子

( 3 ) ソムニードの高山事務局に勤務。担当は、クラフト素材開発事業の他には、スタディツアーなど交流事業全般。本名は、高田尚子。オバチャンたちから、当初「ナオコちゃん」とよばれ、その次に「ナオコさん」とよばれ、4 枚 200 ルピーのトウモロコシの皮の商

品見本を紹介して以降（同便り 29 号参照）は、「ナオコ・マダム」とよばれるようになった。

（ 4）アシスタント・プロマネ：本名、前川香子（下記「PCUR-LINK プロジェクト事務所便り」参照）